

令和8年6月定例市議会

行政報告要旨

総 社 市

本日、6月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださいます。誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

さて、先般、令和7年国勢調査の速報値が発表されました。

岡山県全体では5年間で約8万人の減少。率にいたしますと、4.2パーセントの減少となっております。

そうした中、本市は308人の減少であり、率にいたしますと0.4パーセントの減少でございました。減少した県内市町村の中では最も減少率が低かったとはいえ、この結果に安堵するわけにはまいりません。

確かに、日本の総人口は309万人減少しており、増田レポートの消滅可能性自治体という言葉に象徴されるように人口減少は全国的な流れであり、その流れを止めることは極めて困難なことではございます。

しかしながら、私は、この機会をイノベーションのチャン

スと捉え、この流れに抗い、308人を取り戻し、さらにその先へ進めていけるよう、官民一丸となって全力で取り組んでまいりたいと考えております。

特に、50戸連たんの厳格化など土地規制が厳しくなっている中で、空き家の活用をどのように進めていくかは喫緊の課題です。このため、空家等活用促進区域の設定を盛り込んだ、第2期総社市空家等対策計画の策定を前倒しして進め、空き家利活用の在り方に風穴をあけることにチャレンジしてまいります。

そして、総社市に住み続けてもらうために、今年度スタートした第3次総合計画に基づき「日本一市民にやさしいまち」の実現を目指してまいります。

なかでも重要となってまいりますのが、未来を担う子ども・若者に対する取組です。

私自身、昨年から続けていることですが、自分の足で、全ての小中学校を訪問し、学校現場での様々な声に耳を傾けております。

未来を担うこどもたちを想ったとき、こどもたちの「やりたい」「やってみたい」の気持ちを大切にしたい、その想いを強く持っているところであります。

このため、生徒が「やりたい」と思う部活動を選ぶことができるよう、学校部活動の地域展開を推進してまいります。

先般、そうじゃ総合教育会議を開催し、そうじゃ教育大綱を踏まえ、「礼儀正しく未来を切り拓くこども」「心優しく仲間を大切にすることども」「郷土愛と感謝の心をもつこども」を部活動改革の基本理念といたしました。この基本理念の下、すべてのこどもが光り輝く「ブカツライクな地域クラブ活動」を目指して取り組んでまいります。

そして、8月に全国中学校体育大会の、ハンドボール大会と卓球大会が行われます。会場となる きびじアリーナの空調設備工事も6月末に完成する見込みでございます。

今般のきびじアリーナの改修は、避難所としての機能を高めるものでございますが、当然のことながら、スポーツを楽しむ施設としても、その機能は大幅に強化されるところでございます。

快適な環境のもとで、こどもたちは、より高いパフォーマンスを見せてくれるものと思います。こどもたちの一生の思い出に残る、最高の大会にしたいと考えております。

また、地域の資源をいかし、体験を通じた多様な学びの機会の創出や伝統文化の継承にも取り組んでまいります。

6月2日には、昭和五つ星学園で、名誉校長の野口健さんによる環境学習を行いました。

そして6月8日には、新本小学校の児童が^{あかごめ}赤米大使の相川七瀬さんと一緒に、^{ほんじょうくにしじんじゃあかごめほぞんかい}本庄国司神社赤米保存会^{あかごめ}の赤米の田植えを行いました。

更に、新本、秦、常盤、清音、総社東、総社中央、池田、阿曾小学校、昭和五つ星学園義務教育学校で運動会が開催されました。同時期に行われた幼稚園での運動会も含め、こどもたちが学ぶ姿やスポーツに取り組む姿は素晴らしいものです。

こどもたちは普段できない体験を通じて、様々なことを感じ、学んでくれたと思います。

そして、「子育て王国そうじゃ」の歩みも加速させてまいります。

多様化する保育ニーズに対応するとともに、待機児童の解消に向け、8月には私立保育所の建て替えによる開園を予定しているほか、来年4月には、新設や既存施設の建て替えにより定員を拡大するよう進めているところであります。

もちろん、市民の生活と安全を守り続けるための取組を止めることはありません。

2月27日に発生した武道館・警察署前交差点での下水道の排水不良による復旧工事が完了し、5月22日に交通規制の解除となりました。

工事期間中は、ご不便とご迷惑をおかけしたこと、お詫び申し上げますとともに、節水への呼びかけに対し、多くの皆様にご協力をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

下水道管の老朽化は、全国的に大きな課題となっておりますが、市民生活に直接影響するものであり、危険度の高い箇所について、1日でも早く着手するため、計画を前倒しし、

本議会に補正予算を提出しているところでございます。

そして、災害への備えも怠りません。

平成30年7月豪雨災害から丸8年が経過しようとしておりますが、私は、決して忘れることはございません。

5月31日には、消防団や職員など280名の参加により、高梁川で水防訓練を行いました。訓練を通じて、一人ひとりのスキル向上や連携の確認、そしてなによりも心の備えができたこと、非常に有意義な訓練となりました。

7月6日には、追悼の献花を行います。つらい記憶を風化させないための機会としてまいりたいと考えております。

現在、梅雨や台風による集中豪雨など河川の増水や氾濫、土砂災害の危険性が高まる出水期を迎えています。南海トラフ地震も、いつ発生してもおかしくありません。

こうした状況を踏まえ、あらゆる備えを講じてまいります。

これから新庁舎の西側に倉庫棟を建設いたしますが、防災備蓄倉庫としての機能に加え、緊急避難場所としての機能を持てるようにしていきたいと考えております。

平時の取り組みと事前の備えに力を注ぎ、市民の安全・安心を全力で守ってまいります。

そして、先行き不透明で不安定な中東情勢により、市内の産業に生じている悪影響も看過できない状況になっております。本市の産業を守るため、先日、6月8日に中国経済産業局長を招き、国の動向など最新の情報を共有するとともに、業界が直面する課題に対して、率直な意見交換を行い、生の声を届けることができました。

具体例を申し上げれば、各社から「政府が発信している情報と現場で起こっている事象とでは肌感覚が違う」という意見が多く出され、中国経済産業局側から、「それぞれのサプライチェーンに生じている目詰まりを相談してくれれば個別に相談に乗ることができる」との回答を得たところであります。

引き続き、対応が後手にまわることがないように、事業者と国のパイプ役となり、この難局を乗り越えてまいります。

本市の指定ごみ袋の調達につきましても、原油から精製さ

れるナフサの供給不足が引き金となり、当初の入札は不調となりましたが、発注内容の変更などフレキシブルな対応を行ったことから、必要な供給量が確保できる見通しであります。

どのような政策、どのような取り組みを行うにしても、その土台となる安定した財政基盤が必要になります。

ここで、令和7年度決算の速報値をご報告いたします。

一般会計については約5億7千万円の黒字となる見込みであり、財政調整基金の残高は、過去最高額の82億円超えとなる見込みでございます。

これは、市民の皆様のご理解があってこそのものであります。慎重な財政運営を念頭に置きながらも、市民の皆様に還元するため、誠心誠意、努めてまいり所存でございます。

人口減少社会に抗い、持続的な総社市の発展に向けて、本議会におきましても、議員の皆様と自由闊達で活発な議論を重ねることができることを祈念しまして、私からの行政報告とさせていただきます。